



特集
グローバルで行こう！
**長崎大学と
留学生**
Nagasaki University
International Students

かつてない勢いで、世界中の人や情報が行き交う現代。グローバル化する社会で活躍できる人材を育てるために、大学の国際化は大きな課題のひとつとなっています。長崎大学は、県内でもっとも多くの留学生を受け入れ、また世界中で100校以上の学校と学術交流協定を結び、広く交流している大学であることをご存じですか？ そこで今回は、そんな長崎大学と留学生にスポットを当てます。

左上から時計回り/Garam Kimさん(韓国)、Albert Vegterくん(オランダ)、Thanakorn Pachayamaくん(タイ)、Melvin de Kuyperくん(オランダ)、Nguyen Ngoc Dungさん(ベトナム)、Christine Masindeさん(ケニア)、Charmee Gregoryさん(フィリピン)、金佳映さん(韓国)、Nikitski Alyksandrくん(ペラルーシ)、蔣佳育さん(台湾)、金虎龍くん(韓国)、Marjorie Quiaoitさん(フィリピン)、Mekhala Vonpenさん(タイ)、Naing Linくん(ミャンマー)、欧柳舒さん(中国)、葉承軒くん(台湾)



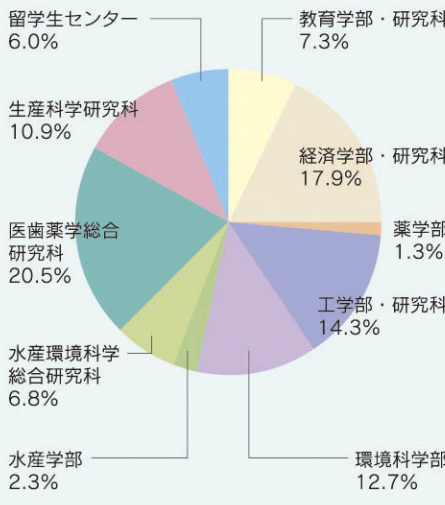
平成23年10月1日

Nagasaki University
International Students

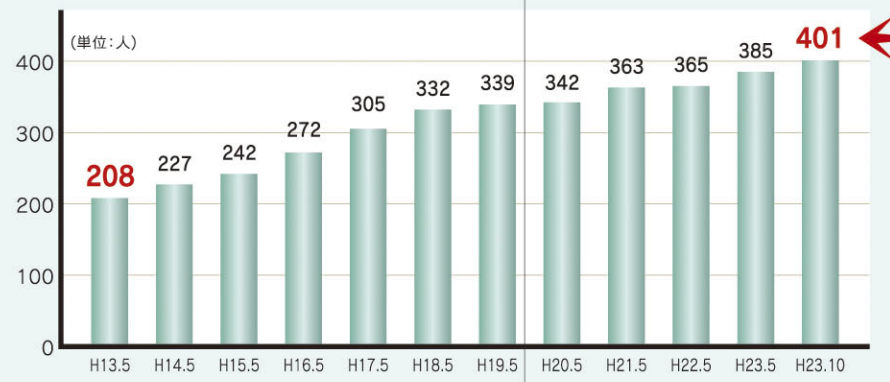
長崎大学の国際化戦略は 全方位的に着々と



2 学部別留学生割合 平成23年度



3 平成13年～23年の受け入れ留学生数の推移



留学生の人数は10年間で約2倍

平和学習から交流パーティまで盛りだくさん



あるときは、被爆の実相を聞いて学習。またあるときは、民族衣装を着てダンスを披露し、大盛り上がり……。長崎大学では、留学生のための特別行事やイベントを年間通して多彩に開催しています。雲仙などへの見学旅行や11月の「インターナショナルフェスティバル」、12月の「留学生交流の集い」といったイベントのほか、防火訓練もあるんだそうです。県や市との共催イベントの場合は、他大学の留学生と交流する機会にも恵まれます。学びはもちろん大切ですが、長崎での楽しい思い出も持ち帰って欲しいですね。



博士課程で物理学を学ぶAlyaksandrくん。休日に絵を描くのが趣味。「感情のおもむくままに、フィーリングで描きます」。日本はもう6ヶ月目なのだそう。

Nikitske Alyaksandrくん (ベラルーシ)

留学生ガイドブック他



英語、中国語、韓国語で書かれた大学案内やキャンパス周辺の地図。登録や手続き、ゴミ出しを始めとする暮らしのルール、アルバイトの注意点、長崎での日常生活を送るためのガイドブックなど、専門スタッフにより丁寧に作られた印刷物が、留学生に配布されています。

一〇年で倍増した留学生数。めざすのは一〇〇〇人

まず中央の棒グラフをご覧ください。長崎大学が受け入れている留学生の人数の推移です。平成十三年は二〇八人だったのが、十年後の二十三年には四〇一人、ここ十年でほぼ倍増しています。八つの学部と七つの大学院、一つの研究所を持つ長崎大学は、これらのさまざまな分野で学ぼうとしている世界中の学生や研究生に、門戸を開いています。国際交流課長の佐藤照明さんにお話を聞きました。

「本当にここ十年で、留学生は増えましたね。我々も最初は学生課留学生係で、職員は四名ほどだったのに、今では十四名、しかも中国や韓国といったネイティブの外国人職員や海外での留学・就業経験のあるスタッフも多く活躍しています。留学生の動きでいえば、特に最近顕著なのが、韓国からの学部学生が増えたこと。それも本国でしっかり日本語を学んだ学生が、直接来日し受験するケースです。また、一年または六カ月間を留学期間とする短期留学の学生も、近年多くなりましたね」。

受け入れも送り出しも一括してリエゾンセンターで

外国人留学生の受け入れだけでなく、日本人学生の留学サポートも併せて統括する組織として、今準備が進められているのが、「国際教育リエゾンセンター」。リエゾン(仏: Liaison)とは、「つなげる」「仲介する」という意味で、つまり日本と海外の間をつないで人の行き来を活発化させようというもの。グローバル人材育成担当の須齋正幸理事は語ります。「人数を増やすのも大切ですが、キャンパスの国際化を実質化させることが重要だと考えています。優秀かつ多様なバックグラウンドを持つ学生がキャンパスに集うことで、長崎大学がグローバル人材を育成する場となるのです。先日、ヨーロッパ、アメリカを訪問し、ライデン大学での短期プログラム、ポルト大学との学生交換交流の開始のほか、ストックホルム大学との交流、カリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校との交流協定の調印準備を行いました。世界のトップスクールにおいて、多様な文化や言語環境の中で専門教育を受ける機会の提供を目

国別にいえば、圧倒的に多いのが中国。日本の他の都市と比べ、長崎は昔からの交流もあり、風土的に暮らしやすいといった嬉しい声も聞かれるとか。留学生センターでは、集中的な日本語学習プログラムを実施しており、留学生はそこで日本語を学びます。また、来年三月には国際交流課や留学生センターなど、留学生関連の機能を文教キャンパスの中央にまると移設する計画も進行中です。ちなみに、一昨年には留学生専用の寮を二棟新設し、収容人数を倍増させました。

大学として十年後をめぐに目標に据えているのは、一万人の長大生のうち、約一割を留学生とすること。つまり一〇〇〇人！それだけ増えたとキャンパスもさらに国際色豊かになって、日本人学生との交流機会も増えるなど、いろんな可能性が広がりますね！

物理学の研究生であるMasindeさんは、長崎に来て6ヵ月目。常温25℃以上のケニアと比べ、長崎は寒暖の差があり「最初は風邪をよくひいてました。今はだいじょうぶ」。日本食は天ぷらがお気に入りとか。



Christine Masindeさん (ケニア)

言葉の壁を取り除く、言語教育研究センター発足

日本で育った学生が国際社会で活躍するためには、外国語の習熟は欠かせません。それには専門教員による集中的な教育が必要で、そこで長崎大学では、今年度から英語をはじめ、韓国語、中国語、フランス語の外国語教育をマネジメントする「言語教育研究センター」を設置しました。特に英語は、専任の英語教員を倍増させ、きめ細かな指導を充実させる一方、自学自習システムをオンライン化して自宅から二十四時間アクセス可能にするなど、システムの検討が進められています。入学時には受験英語しか身につけていない学生も、卒業するときには自信を持って外国人と話せる——TOEICテストなどを定期的に行いながら英語運用能力を鍛え上げていきます。

Daily Life

as an international student

外国人留学生ライフ

留学生は、
長崎でどんなふう
に暮らしているの
でしょうか。



キム ホジョン
金 虎龍くん
工学部 韓国出身

長崎大学には留学生専用の寮「国際交流会館」が、長崎市の西町と、坂本町にあります。特に西町には一昨年、ルームシェアタイプの部屋のある建物が二棟新設されました。

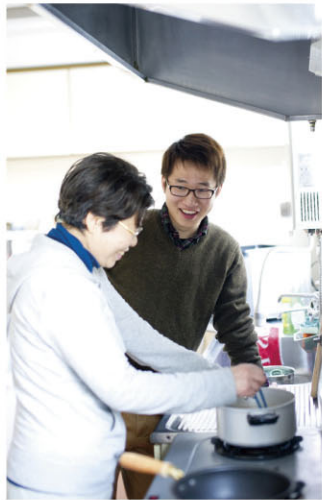
まだキレイ！キッチンやバストイレは共同ですが、各自の個室があり、想像していた以上に整った環境です。金くんのルームメイトは三人。「ケニアの学生が二人と台湾の学生一人。と

食べますよ。でも作るのとは別々。国によって作り方が違いますかね。例えば油や塩を入れる順番も違うので、僕も最初びっくりしました」。なかには、家電品や家具に「レンジ」「冷蔵庫」「食器棚」と日本名のラベルを貼りつける留学生も。みんな勉

数年前、初めて東京に留学の下調べに行ったとき、ホンダのロボットASIMOを観ました。ロボット工学の先端技術を学ぶために日本への留学を決めたのです。長崎は東京と比べ、自然豊かで景色が美しいのが魅力ですね。物価も安いよ



広々リビングは大きなテレビもあるのでいつもわいわいと賑やか。会館チューター（学生の学習や生活相談者 P9参照）の横くんと和気あいあいです。



こちらは補食室。共同キッチンとダイニングテーブル、それぞれの道具やマイ調味料を置く専用のボックスがあります。管理人の竹下さんとも日本語でやりとり。



金くんの個室。勉強に、趣味に、パソコンは手放せません。インターネットは各自で契約するのだそうです。壁には故郷からの手紙や写真も貼ってありました。こちらにはほかに、單身室や夫婦室、家族室などもあります。

強熱心ですね！カメラが趣味の金くん。長崎は祭りやイベントが多く、題材には事欠かないようです。「先週はオランダ人の友達といっしょに伊王島に行きましたよ。天気が良かったのでいい写真が撮れました」と嬉しそう。

いので、よく事情を聴いて理解してから注意するようにしています」と古川敬子さん。竹下年枝さんは「気を付けているのは平等に接すること。日本人も外国人もコミュニケーションの基本はいつしよです」。なんとこちらでは寮としてクリスマスパティーなどはいっさいやらないのだとか。一つの宗教行事だけをやるのは平等でないから、と。もちろん、セミナールームなど、自由に使えるリビングで学生たちが

自らやるぶんには問題なし。「先日はイスラム系の学生さんたちがラマダン（断食月）明けのお祝いをしてました。珍しい文化に接することもあり、興味深いですね」。ちなみにこの会館に寄宿できるのは入学後半年間だけ。その後は一般のアパートなどを借りて生活することになります。少し難易度は上がりそうですが、その分、私たち普通の長崎人と接する機会が増えることとなります。

長崎大学 外国人留学生 後援会



外国人留学生の中には、日本の文部科学省の援助で留学している国費留学生のほかに、自分のお金で留学している私費留学生がいます。物価の高い日本で学ぶのはなかなか大変！そこで、そんな彼らを支えているという組織が「長崎大学外国人留学生後援会」。例えば、私費留学生が民間のアパートなどに入居するときの負担を軽減するため、家賃や不動産仲介手数料の補助などを行っています。また、いざという時の学生賠償責任保険の掛け金を出したり、交流事業を企画したりと、様々な形でサポートを行っています。

●長崎大学外国人留学生後援会 TEL.095-819-2122 ●<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ryugaku/j/kouenkai/index.html>



留学生専用の寮「国際交流会館」

本学を卒業した 留学生が 自ら創設した奨学金



留学生が活用できる奨学金システムはいくつかありますが、その中から「葉 國璽」私費外国人留学生奨学金についてご紹介しましょう。これは、台湾からの留学生として1987年に長崎大学医学部に入学した葉 國璽先生が、「充実した大学生を送らせてもらった恩返しに」と提供された寄付金で創設したものです。現在、千葉県「ちはら台整形外科」で院長をされている葉先生、なんと片峰学長が細菌学の助教授であった頃の教え子。「毎日のように研究室に出入りし、先生方や学友たちと楽しく語り合った思い出が忘れられません」。後に続く後輩たちへの熱い想いが、こもった奨学金なのです。

葉先生





家族滞在 の留学生

留学生の中には、家族で滞在しているケースもあります。インドネシアから留学しているアリーさんは、薬学部の大学院生で、ご主人も水産学部の研究生。長崎市内のアパートに2歳と5歳の娘さんの4人で生活しています。「日本語はまだ難しくて、朝の挨拶くらい。娘のほうが保育園で覚えるのか、上手になりましたよ。この前も『ママ、今日は燃やせるゴミの日よ』と教えてくれました」とアリーさん。長崎は暮らしやすいけれど「バスの行先が漢字だけなのでわかりづらいですね」確かに。長崎も、国際都市と言うからには、こうした留学生の声に耳を傾けて、もっと改善していく必要がありそうです。



Singgih Harjantoさん(右上)
Ning Ima Arie Wardayanieさん(左上)



日本語教育 プログラム

日本語教育プログラムの初級1の教室をのぞいてみました。この日の学生は13人。「病気になるのでご飯を作ってください」「私の国ではお正月に〇〇をします」といった日常的に使えるセンテンスが中心。

長崎大学はチューターや会話パートナー（P9参照）などいろいろな制度があり、困ったことは日本人学生が相談にのってくれるので、助かります。日本語の勉強にもなりますね。彼女をはじめ、多くの留学生が毎日のように顔を出す留学生センターは、文教キャンパス正門を入ってすぐ左手の建物。一階の交流プラザに入ると、国際交流課の中国系ネイティブスタッフである松田風さんが、中国語で話しかけます。シェリーンさんの母国であるマレーシアは、中国系の人々も多いため、彼女は英語やマレー語の他に中国語も堪能！テンポの速い中国語会話が飛び交うその隣では、韓国人の留学生がおしゃべりしており、あたりは一気に国際色豊かな空

気に。このプラザに隣接する教室棟には教室が五つあり、朝早くから日本語教育プログラムが実施されています。プログラムは、初級から上級まで六段階、半年に一度のテストで上がっていくのだそう。自国で日本語教育を受けてきた人から、まったく日本語を知らずに来崎した人まで、各人の語学レベルに応じてクラス分けされます。日本語プログラム担当の多田美有紀准教授によれば「ひらがなから教えていた学生が、ちゃんと日本の新聞を読んで討論できるくらいまでにレベルアップしているのを見ると、本当に感動しますよ」。なるほど、もっとも優秀な学生が多いから、みんな上達が早いんですね。



ネイティブスタッフの松田さんと楽しげに語るシェリーンさん。松田さんによれば、相談に来る留学生には、外国人登録の方法やガスや水道の手続きなど、日常生活全般を教えるのだそう。「すっかりお母さん代わりだね、なんて同僚から笑われます」。逆に、遠く祖国を離れているからこそ、お母さんみたいな存在って大切ですよ

Daily Life

as an international student

外国人留学生ライフ

長崎は暮らし
やすいですね。
親切な人も多いです。



今度は、マレーシアから留学して六カ月目というシェリーンさんに、キャンパスでの生活を聞いてみました。本国では小学校で英語を教えているという彼女、日本の文科省による奨学金制度を活用し、留学しています。「教育学部で子どもの心理学や社会学を

学んでいます。長崎は暮らしやすいですね。親切な人も多いです。買い物に行ったら声をかけてくれるし、言葉が多少通じなくても筆談でなんとか意思疎通もできます。でも日本語はまだまだ、うまく表現するのが難しいですね。もっと勉強しないとけません。



附属図書館も留学生にとってはオアシス的な存在。英語や中国語などの新聞、雑誌が豊富に揃い、自由に閲覧できます。留学生コーナーには、各国語の書籍や日本語テキストがずらり。留学生が優先的に使用できるパソコンも完備しています。※図書館は4月から来年3月まで改装工事のため、新館（放送大学合棟）に移転して運営中。

シェリーン サイモン

Shireen
Simonさん

教育学部 マレーシア出身



留学生交流プラザ。一面には外国語のソフトの入ったパソコンがあり、自由に使えます。それぞれ学ぶ学部は違っていても、ここに来れば誰かに会えるからと、大勢の留学生や日本人学生が頻りに出入りしています。



International Interaction

日本人学生と留学生の交流ABC

同じ大学に通うのも何かの縁。まず友達。そこから生まれる関係もあります。

問い合わせ
 会話パートナー、チューターについて
 留学生センター TEL.095-819-2243
 AMIGO E-mail noamigo.nolife@gmail.com
 NIVA E-mail niva_nagasaki@yahoo.co.jp

さて、日本人学生が留学生と接するにはどうしたらいいのでしょうか。
 長崎大学には、いくつかの制度と、サークルがあります。

チューター

大学が選定する、学習と日常生活のアドバイザー的存在。年間一〇〇時間ほどで、謝礼も支払われます。その中のひとり、経済学部の横嘉昭くんは、留学生寮で会館チューターとして共同生活も送っています。「日常的に英語を話すので会話の勉強になるし、何

より友達が増えますね。一人暮らしと比べて全然寂しくないですよ」。チューターは、経験豊かな先輩留学生が引き受けるケースもあります。

会話パートナー

日本人学生と留学生がペアとなり、お互いの言葉や文化を学び合いながらコミュニケーションを図るプログラム。留学生と友達になってみたい……という日本人学生には最適。買い物や食事といったふだんの暮らしや、お互いの国の文化の違いなどを、日本語や英語

を駆使しながら学び合うことで、異文化理解が深まりそう

国際交流サークル AMIGO

創設十年以上という老舗のサークルで、ウエルカムパーティーに始まり、七夕やハロウィンなど、機会を見つけてはみんなで交流するのだそう。松田麻美さん(環境科学部)もメンバーの一人。「みんなで料理を作ったりするのでお金はあまりかかりません。去年はオランダからの留学生たちを誘って、出島をはじめ長崎の街を案内しました。高校までは自分に近い人しか話す機会はなかったけれど、大学はいろんな人と知り合うチャンスがあります。留学生も同じ国の子たちとばかり固まるより、外に出て長崎を楽しんで欲しいですね」。

ボランティアサークル NIVA

昨年生まれたばかりの新しいサークルですが、メンバーは五〇名以上と大所帯。里山

づくりやダウン症の子もたちとのふれあいなど、幅広く活動しています。立ち上げメンバーの岩永沙織さん(教育学部)は語ります。「時にはすごく大変な思いをすることもあるけれど、留学生と共同で何かを達成するって絆が深まります。今後は外部との調整などでも留学生の出番を作りたいですね」。メンバーは特に英語が得意とか留学経験があるという人ばかりではなく「やってみると面白いじゃないですか」。

そのほか、他大学と連携しながら活動しているサークルや研究会もあり、さまざまな規模やテーマで留学生と交流できます。「実際に接してみると、価値観の違いや意外な共通点が発見できて世界が広がります。交流をきっかけに、今度はその友達の国に留学してみよう、という人も多いですよ」とはAMIGOの松田さん。

まさに外国人の友達の存在は、世界につながる「はじめの一歩」になるんですね。



Study abroad

Nagasaki University

長崎大学の海外留学

長崎大学の外国との 学術交流協定締結状況

(31国・地域118校)平成24年3月1日現在

★は学生交流の覚書を結んでいる大学

中華人民共和国

福建省疾病予防控制中心/★復旦大学/★福州大学/★中国海洋大学/★中国薬科大学/★福建医科大学/★同済大学/★大連海洋大学/★第四軍医大学/★香港浸會大学中医学学院/★北京師範大学/★北京教育学院/★新疆医科大学/★上海財經国際工商管理學院/★中南大学/★東北師範大学/★上海海洋大学/★上海師範大学/★華東師範大学/★集美大学/★天津科技大学/★吉林大学/★中国医科大学/★北京協和医科大学/★江蘇省血吸虫病防治研究所/★山東大学/★山東科技大学/★浙江海洋学院

台湾/中華民国

★国立陽明大学/★淡江大学/★国立高雄海洋科技大学/★国立台湾海洋大学/★高雄医学大学/★国立政治大学/★国立台湾大学/★国立台湾師範大学

大韓民国

★済州大学校/★釜慶大学校/★江原大学校/★晋州保健大学校/★昌原大学校/★全南大学校/★仁荷大学校/★漢陽大学校/★延世大学校/★韓国海洋研究院/★慶北大学校/★慶熙国立水産科学院/★梨花女子大学校/★成均館大学校/★慶熙大学校/★ハルム大学校/★ソウル大学校/★プサン大学校/★嶺南大学校/★新羅大学校/★韓国教員大学校/★全北大学校

モンゴル国

★モンゴル国立健康科学大学

タイ王国

★チエンマイ大学/★チュラロンコン大学/★マヒドン大学/タマサート大学/★タイ王国保健省医科学局

インドネシア共和国

★サムラトランギ大学/★トリサクティ大学/★アイルランガ大学/★プラウイジャヤ大学/★ボルネオ大学

シンガポール共和国

★シンガポール国立大学

マレーシア

★マレーシア科学大学

フィリピン共和国

★フィリピン大学ディリマン校/★セントルークス医療センター/★サンラザロ病院医療センター/★イースト大学/★フィリピン大学ピサヤ校

ベトナム社会主義共和国

★国立衛生疫学研究所/★カントー大学

ミャンマー連邦

★ミャンマー保健省医科学局・医学研究局

バングラデシュ人民共和国

★BRAC大学

インド

★スリー・チトラ・トリニユアル医療科学技術研究所/★インド国防省附属防衛科学技術研究所

アメリカ合衆国

★サウス・カロライナ大学/★ミシガン州立大学/★アリゾナ大学/★ハワイ大学マノア校/★ミネソタ州立大学マンケイト校

ブラジル連邦共和国

★ナリオ・グランデ・カトリック大学/★フィゲイラ教授記念母子保健研究所

イタリア共和国

★トリノ工科大学/★ナポリ大学フェデリコII/★パトリ大学

イギリス

★オックスフォード大学グレイ研究所(放射線腫瘍学・生物学研究科)/★リバプール大学

ドイツ連邦共和国

★ビュルツブルク大学/★ヨハネス・ゲーテンベルク・マインツ大学/★ポルト大学

オランダ王国

★ライデン大学

フランス共和国

★オートアルザス大学ミュールーズ国立高等化学院

ノルウェー王国

★ノルウェー科学技術大学

ペラルーシ共和国

★ペラルーシ医科大学/★ゴメリ医科大学/★ペラルーシ卒業教育医学アカデミー

カザフスタン共和国

★セミパチンスク医科大学/★カザフスタン放射線医学環境研究所/★カザフ国立医科大学

ウクライナ

★ウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所/★ウクライナ医学アカデミー放射線医学研究所

ロシア連邦

★オープンスク医学放射線研究所/★サントペテルブルグ卒業教育医学アカデミー

ケニア共和国

★ケニヤッタ大学/★ケニア中央医学研究所/★ナイロビ大学/★ケニア国立海洋水産研究所

南アフリカ共和国

★南アフリカ国立感染症研究所

タンザニア連合共和国

★ムヒンビリ健康科学大学

ヨルダン・ハシミテ王国

★ヨルダン大学

トルコ共和国

★黒海工科大学

森山和興くん(経済学部)「経済発展の様子とか、格差とか。テレビではわからないことを、実際に肌で感じることができました」。井上俊克くん(経済学部)「僕は最初は正直、モチベーションが低くて、単位が取れて観光できる！くらいだったんだけど(笑)。あちらにいるうちにどんどん盛り上がりが出てきて、値切り方のレッスンとか、中国語で創作演劇なんていう面白いプログラムもありました。こんなこと観光ツアーじゃ体験できない」。田中さん「海外に出ると新しい自分が発見できます。私って意外と日本が好きだったんだなって。とにかく視点が変わるんですよ」。

矢野くん「文化の違いや、知らなかった言語で話して通じる喜ばない学校と環境は大切ですね。それらをきちんと見極め、サポートする体制が整っているのです。実際に留学経験をした長大生にお話を聞いてみました。田中淑香さん(教育学部)「私は韓国に二週間の文化体験と、オーストラリアに三週間語学研修に行きました。韓国ではチマチヨゴリを着たり、海に潜って海女さん体験をしたりと楽しかったですね。韓国の大学生とも仲良くなりました。またオーストラリア滞在中に東日本大震災が起こったのですが、あちらでは、『もう日本は終わった...』みたいな報道がされていてびっくり。帰国してからは、日本のニュースの見方が変わりました」。矢野圭二郎くん(経済学部)「僕ら三人は、中国の北京に三週間語学研修で行ってきました。今の中国を自分の目で見ておくのは大切なことだったので。帰国後はバイト先の中国人のとも気軽に話せるようになったのがよかったですね」。

長崎大学から海外へ！ 留学のあれこれ



若手研究者、 海外の最先端研究機関へ！ 支援プロジェクトで 112名が渡航

ヨーロッパ61名、北アメリカ31名、オセアニア3名、アジア17名。これは、長崎大学大学院歯薬学総合研究科が、海外に派遣した研究者の派遣先とその数です。平成21年から23年度にかけて、日本学術振興会・若手研究者海外派遣事業の助成により実現しました。約2年間の中で、112名もの長崎大学の若手研究者が、10日から2ヵ月間、国際レベルの研究の現場を体験したのです。個々の分野で先進的な地域で学んだ知見を日本でいかに生かすかを模索したり、日本とは逆の手法での治療法をまのあたりにしたり。論文を読むだけではわからなかった実験のコツや、参加すべき学会の情報など、それぞれの専門分野で、得るものは多かったようです。この派遣プログラムについては報告書集にまとめられています。

◆歯薬学総合研究科学術協力課
学術交流係 TEL.095-819-7198